



### 学校教育目標：心豊かで自ら学び たくましく生きる子どもの育成

## 人の役に立つ喜び！ それは「やる気」の種！



先日、社会福祉協議会から学校へ電話がありました。  
実はちょっと前のこと、本校3年生が、田平の社会福祉センターを訪問し、社会福祉協議会のデイケアサービスを利用される方々との交流活動を実施していました。(その節は大変お世話になりました。)

その交流活動の際、参加されていた方が、子ども達との交流を大変喜んでくださったのだそうです。それで、その方の娘さんが、3年生の子ども達のために帽子とマフラーを一つ一つ編んでくださり、ぜひプレゼントしたいとおっしゃっているという内容のお電話でした。

子ども達のことを思い、心を込めて編んでくださった帽子とマフラー。お断りする理由はありません。大変恐縮しながら、ありがたく頂戴することにしました。

電話の後、しばらくすると社会福祉協議会の方が、代理で学校まで届けてくださいました。(上の写真です。) 6名の3年生に頂いた帽子とマフラー、それは6名、一人一人にピッタリな、それはそれは、とても可愛らしく素敵なおばあちゃんの温かな心、そして、そのおばあちゃんのそんな気持ちを共に受け止め、代わりに一目一目心を込めて編んでくださった娘さんの優しい心が込められているように感じられ、子ども達は、大喜び！思いもかけないプレゼントに感激と嬉しさでいっぱいでした。

3年生の子ども達、学習発表会に向け準備し、練習してきたことを、再度練習し、この交流活動でも発表しました。「福笑い」で遊び、「肩たたき、肩もみ」もさせて頂きました。そこには、「交流して、見てくださる方々に、喜んでいただきたい」という思いがあったはず。そんな子ども達の気持ちや願いはしっかりと伝わったようです。

自分たちが一生懸命に努力し、頑張ったことで、「人に喜んでもらえた。」 「人の役に立つことができた。」 「一緒に、共に笑顔なれた。」

子ども達は、交流させて頂けた上にそんな経験をし、思いをもつことができました。

福笑い 完成！

「人」は本来、「人の役に立ちたい」と願っていると言われています。逆に言えば「人に必要とされたい」ということでもあります。「人の役に立つ」ことは大きな喜びです。そして、その「人の役に立つ喜び」は、子ども達の「自己肯定感」や「自己有用感」に繋がります。なぜならば、それは外部からの働きかけによるものや外部から与えられたものではなく、自分の中から湧き出てくるもの、自分の中から生まれてくる本物の喜びであり、やる気だからです。

3年生の子ども達は、自分達が『人の役に立つことができる、人に喜んでもらえることができる、人を笑顔にできる存在である。』ということを実感できる経験をしました。

さあ、3年生の子ども達の心の中に、また一つ、大きな「やる気の種」が植え付けられました。

その種はこれからも、どんどん、どんどん大きく、そしてたくましく育っていくことでしょう。楽しみですね。

今回は3年生の例を紹介しました。他の学年の子ども達もいろいろな場面で「人の役に立つ」「人に喜んでもらえる」という経験をしています。

肩をお揉みしま〜す！

「本物の笑顔」を目指す東っ子59名。みんなの「やる気の種」が、太く、大きく育つのが楽しみです。